

ヒロシマ

HIROSHIMA



2012(上)

ペ

ン

HIROSHIMA

2012(上)



広島ペンクラブ



表紙●川堀耕平 題字●大木 茂 目次カット●江川政昭 扉●王 昭
 ギャラリー●マナブ・マベ／上田由美子／新田稲實／足立柳子／ラギーザ・
 玉／天瀬裕康／太田 忠／大木 茂／落谷虹児 表三●今泉 質

《目次》

片柳 寛	……そういえば、あれは――	17
谷口 範行	…… 特別寄稿 人災	18
新田 和雄	……デュナミス	19
赤松 和彦	……在外父兄救出学生同盟	20
駒形 秀雄	…… 特別寄稿 ヒロシマ イン ブラジル	21
長崎 孝	…… 遺稿 月の桂の世界	22
土屋 孝子	……母のこと(13) さようならも言わないで	23
高橋 昭三	……吉岡舟邨逝く	24
秋山 光智	……地元が支えた清盛ロケ	25
吉村 馬洗	…… 遺稿 太田川惜春	26
上田由美子	……従兄の置き書き	27
山根 興哉	……宮島お砂焼の由来(三)	28
大島 邦夫	……一枚の写真	29
太刀川 類	……人生から逃げろ	30
井上 哲一	……盆燈籠と安芸門徒	31
永田 稔衛	……自選回想歌(終回その六)	32
小島 哲	……入学試験の思い出(その二) 汚職事件始末記	33
松村 誠	……完全犯罪を見逃すな 日本警察医会の挑戦	34
三上寿磨子	……去るものは風のごとくに	35



川村 健一	……都市の変化を考えるパラダイム・シフト	……	36
伊藤 秀輔	……初めての上高地	……	37
正木 嗣鵬	……中国渡来人の書(12) 番外編(4) 揚州八怪・金農の師・何焯	……	38
谷本 直隆	……水戸黄門	……	39
上田みどり	……ギャップ・イアの取り扱い	……	40
原 時彦	……帰広―疎開地へ―	……	41
山本 修	……狐狸が人間を騙していた頃の話	……	42
迫田 勝明	……民国百年	……	43
中島 脩	……晋作の萩脱出(5)	……	44
田中 泉	……ジョセフ・ヒコの墓	……	45
中尾 建三	……夢と思ほゆ国やぶれつつ―感傷、折口信夫―	……	46
浅田三恵子	……広島ジュニアマリンスンバアンサンブルフランス公演	……	50
タケダヒロコ	……医者と墓場と天国	……	51
江川 政昭	……大英博物館を訪ねて	……	52
西村 哲郎	……建設コンサルタントに従事して思う(その4)	……	53
兒玉 昭人	……自己紹介に代えて	……	54
玉井田 泰	……マスコミへの不信	……	55
吉岡早百合	……タスマニアのヒロシマ	……	56
福田 康彦	……女と煙草	……	57
梶矢 文昭	……広島のお断と新潟の英断(1)	……	58
生和 秀敏	……二つの歌	……	59
久保田靖子	……ルナホール	……	60
行年 和正	……鎮魂旅行記	……	61
小野 文孝	……面影	……	62
袁 葉	……桜の国(II)	……	63



石井	康隆	人畜無害で思うこと	64
山本	光珠	天上天下	65
北川	建次	農を疎かにすること勿れ	66
亀井	一夫	人の耐用年数	67
河本	尚子	「縮小傾向」—日本考	68
原田	佳子	シスター・アンナは必要か	69
横山	邦治	大連流連足掛け十年(七)	70
前田	和美	朝は朝星、夜は夜星	71
富沢	佐一	宮島の桜と紅葉	72
檜垣	昭光	幻想の旅 [Shout]	73
佐々木	健	放射能を取り除け! イスカンダルバイオP	74
丸子	ようこ	あなたは私の夫じゃない	75
難波	紘二	飯島先生(その六)	76
荒井	輝雄	嗚呼 富士山! 出会いから五十五年	77
中下	毬子	クレヨン	78
酒井	立夫	自転車	79
寺尾	邦昭	部下に尊敬されて、初めて上司になれる	80
廣田	健吾	東日本大震災で示された山桜花の使命感	81
児玉	光禎	真夏の深入山登山	82
高橋	博暢	今、余生を生きている	83
梶川	威子	エーデルワイス	84
木村	進匡	医者とは	85
小杉	薦雄	遺詠 偲び草	86
籬	かをる	パンドラの箱	87



世木田寛子……………人間からヒトへ……………	88
保手濱神龍……………杏林雜感……………	89
川堀 耕平……………お馬……………	90
足立 柳子……………出会いと別れ……………	91
田中 康夫……………旅ゆけば……………(16) ぶらり広島オムニバス……………	92
花井 隆爾……………茶席の花……………	96
天瀬 裕康……………峠三吉における愛人と愛情……………	97
夏目 康文……………シナシユラン……………	98
新川 貞之……………社会教育と文化……………	99
碓井 静照……………大量の銅剣が発見された荒神谷遺跡……………	100
舛井 寛一……………日本人の教養……………	101
務中 昌己……………なでしこジャパンと熊野筆……………	102
豊嶋 睦……………名古屋今昔……………	103
板倉 昭子……………遺稿 雲南の旅……………	104
川村 毅……………絶筆 織田幹雄先生を偲んで (2)……………	105
渡辺 玲子……………慶州の仏たち……………	106
吉村 良哉……………川下り……………	107
大谷 育平……………奇跡の人……………	108
長谷川是求……………散髪談義……………	109
新本 稔……………私のペン……………	110
森田 繁昌……………極楽庄々路地のない町……………	111
有田 博司……………まさか……………	112
稲田 公子……………御札返し……………	113
小笠 邦久……………旅路の果て 淡路島派遣……………	114
大下 徳也……………被爆死した庶民の政治家 森田福市……………	115



春和の志

M. Egawa

橋 弁 慶

川堀 耕平（かわほり こうへい） 本名 川堀昭人

大正十四年（一九二五）鳥根県生まれ。昭和十九年から二十四年応召、
 関東軍、シベリア抑留。三十一年久留米大学医学部卒、広島大学整形外
 科を経て三十八年外科川堀病院開設、医学博士。医療法人三溪会川堀病
 院理事長。東光会、県展委嘱、日展入選数回、現在無所属。
 著書に「川堀耕平画集」「タモイ」「ひとなでの煙」「青い独楽」「カラガ
 ンダ第八分所」など。

表 紙

山口 隆子……………	138
ブログで繋がる……………	
佐藤伊佐雄……………	128
晩春挽歌……………	
梶 杏子……………	127
「金沢ことば」あれこれ……………	
義之……………	126
風の旅人……………	
久村 敬夫……………	124
老舗館すべての灯が消えた……………	
今泉ただし……………	122
残念の鳥……………	
本の旅 秋の日に備北文化を訪ねる……………	
本の旅 百済・新羅史跡の旅……………	
次号原稿の案内……………	
編集人記……………	
広島ペンクラブ規約……………	
表紙の言葉……………	